

事業番号

2023 - 文科 - 新23 - 0486

| 令和5年度行政事業レビューシート | | (文部科学省) | | | | | |
|--|---|------------------------------|----------------|---|-------------------------|-----------------|---------|
| 事業名 | アジア高校生架け橋プロジェクト+ | | 担当部局 | 総合教育政策局 | | 作成責任者 | |
| 事業開始年度 | 令和5年度 | 事業終了(予定)年度 | 令和9年度 | 担当課室 | 国際教育課 | 国際教育課長 中野 理美 | |
| 会計区分 | 一般会計 | | | | | | |
| 根拠法令 (具体的な 条項も記載) | - | | 関係する 計画、通知等 | 「新たな教育振興基本計画」令和5年6月16日閣議決定 教育未来創造会議「未来を創造する若者の留学促進イニシア ティブ」(第二次提言)令和5年4月27日 | | | |
| 政策 | 13 豊かな国際社会の構築に資する国際交流・協力の推進 | | 主要経費 | 教育振興助成費 | | | |
| 施策 | 13-1 国際交流の推進 | | | | | | |
| 政策体系・評価書URL | https://www.mext.go.jp/content/20220228-mxt_kanseisk02-000019646.pdf | | | | | | |
| 事業の目的 (5行程度以内) | 日本や外国の言語や文化を理解し、日本への愛着や誇りを持ちつつ、グローバルな視野で活躍するための資質・能力の育成が求められている。このため、平成30年度から令和4年度に実施してきたアジア高校生架け橋プロジェクトの成果を生かし、アジア諸国を中心に日本語を学ぶ優秀な高校生を日本全国の高校に招聘し、留学生と日本人高校生が共同生活を行い、国際理解を深める機会を創出するとともに、本プロジェクトにおいて招聘した留学生と日本人高校生が交流する「国際交流キャンプ」を開催し、国際的に活躍できる人材育成を推進する。 | | | | | | |
| 現状・課題 (5行程度以内) | 「アジア高校生架け橋プロジェクト」において、5年間で974名の招聘を実施した。 成果としては、 ・招聘した外国人高校生が高校卒業後、国費外国人留学生制度などにより日本の大学等へ進学 ・日本人高校生の招聘した外国人高校生の出身国に対する理解や関心の高まりが見られた。 しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、対面での地域交流・体験学習が十分に行えなかった。また、学校内の取組だけでなく留学生との地域的な交流機会を促進し、留学機運の更なる醸成が必要である。 | | | | | | |
| 事業概要 (5行程度以内) | アジア諸国を中心に日本語を学ぶ優秀な高校生を日本全国の高校に招聘する。日本各地でホームステイや寮生活をしながら、日本の高校生と共に学び合い、国際交流を深める。また、招聘した留学生と日本人高校生が参加する「国際交流キャンプ」を実施し、より効果的に国際交流体験を推進する。 これにより、日本の高校生の留学意欲や異文化理解が促進されるとともに、当該事業の国際交流を通して、互いの国に精通したリーダー、架け橋となる人材を育成することを目指す。 | | | | | | |
| 事業概要URL | https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/koukousei/1323960.htm | | | | | | |
| 実施方法 | 補助 | | | | | | |
| 補助率等 | 10/10 | | | | | | |
| 予算額・ 執行額 (単位:百万円) (インプット) | 予算の 状況 | 当初予算(A) | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度要求 |
| | | 補正予算(B) | - | - | - | 176 | 456.4 |
| | | | - | - | - | - | - |
| | | | - | - | - | - | - |
| | | | - | - | - | - | - |
| | | | - | - | - | - | - |
| | | 前年度から繰越し(C) | - | - | - | - | - |
| | | 翌年度へ繰越し(D) | - | - | - | - | - |
| | | 予備費等(E) | - | - | - | - | - |
| | | 計(F) =(A)+(B)+(C)+(D)+(E) | - | - | - | 176 | 456.4 |
| | | 執行額(G) | - | - | - | - | - |
| 執行率(%) =(G)/(F) | - | - | - | - | - | | |
| 当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) =(G)/[(A)+(B)] | - | - | - | - | - | | |
| 令和5・6年度 予算内訳 (単位:百万円) | 歳出予算項・目 | | 令和5年度当初予算 | 令和6年度要求 | 主な増減理由(・要望額・予備費) | | |
| | (項) | 国際交流・協力推進費 | | | 高校段階の留学を促進するために必要な経費の増。 | | |
| | (目) | 国際文化交流促進費補助金 | 175.6 | 456 | 重要政策推進枠 456百万円 | | |
| | (目) | 職員旅費 | 0.3 | 0.3 | | | |
| | (目) | 委員等旅費 | 0.1 | 0.1 | | | |
| | (目) | 諸謝金 | 0.0 | 0.0 | | | |
| | | その他 | 0 | ▲ 0 | | | |
| | 計(A) | 176 | 456.4 | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|--|---|--------------------|-------|----|-------|--------|-------|-----------------|-------------|
| 活動内容① (アクティビティ) | | アジア諸国等で日本語を学ぶ優秀な高校生を日本全国の高校に招聘する事業を民間団体を通じて実施する。 | | | | | | | | |
| ↓ | | | | | | | | | | |
| 活動目標及び活動実績 ① (アウトプット) | | 活動目標 | 活動指標 | | 単位 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 5年度 活動見込 | 6年度 活動見込 |
| | | アジア諸国等で日本語を学ぶ優秀な高校生を日本全国の高校に招聘する。 | 当該事業により日本に招聘した高校生数 | 活動実績 | 人 | - | - | - | - | - |
| | | | | 当初見込み | 人 | - | - | - | 50 | - |
| ↓ | | 成果目標①-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり) | | | | | | | | |
| | | 当該事業で全国の高校に招聘した留学生が日本の高校生と共に学び合い、国際交流を深めることにより、日本の高校生の留学意欲が向上につながっているかを 図る目標として設定。 | | | | | | | | |
| 成果目標及び成果実績 ①-1 (短期アウトカム) | | 成果目標 | 定量的な成果指標 | | 単位 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 目標年度 15 年度 | |
| | | 将来留学したいと思う日本人高校生の増加 | 将来留学したいと思う高校生の割合 | 成果実績 | % | - | 34.7 | - | - | |
| | | | | 目標値 | % | - | 36.8 | - | 94 | |
| | | | | 達成度 | % | - | 94.3 | - | - | |
| 成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績 | | 成果実績: 文部科学省調査「高等学校等における国際交流等の状況について」 目標値: <令和3年度> 文部科学省調査「高等学校等における国際交流の状況について」における平成29年度調査結果 <令和15年度> 新型コロナウイルス流行による影響が出る前の平成29年度時点における留学したいと思う高校生数及び実際の留学生数から、新たな教育振興 基本計画(令和5年6月16日閣議決定)における2033年の目標である120,000人を達成するために必要な留学したいと思う高校生の割合を設定 ※調査は隔年実施のため、令和4年度の調査実施予定なし。 | | | | | | | | |
| ↓ | | 成果目標①-2の 設定理由 (短期アウトカム からのつながり) | | | | | | | | |
| | | 当該事業による、日本の高校生の留学意欲向上が実際の留学生数の増加につながっているかを測る目標として設定。 | | | | | | | | |
| 成果目標及び成果実績 ①-3 (長期アウトカム) | | 成果目標 | 定量的な成果指標 | | 単位 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 目標最終年度 15 年度 | |
| | | 日本人高校生の海外留学生数の増加 | 日本人高校生の海外留学生数 | 成果実績 | 人 | - | 3,118 | - | - | |
| | | | | 目標値 | 人 | - | 46,869 | - | 120,000 | |
| | | | | 達成度 | % | - | 6.7 | - | - | |
| 成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績 | | 成果実績: 文部科学省調査「高等学校等における国際交流等の状況について」 目標値: <令和3年度> 文部科学省調査「高等学校等における国際交流の状況について」における平成29年度実績 <令和15年度> 新たな教育振興基本計画における2033年の目標人数 ※調査は隔年実施のため、令和4年度の調査実施予定なし。 | | | | | | | | |
| アウトカム設定について の説明 | | アクティビティ①について定性的なアウトカムを設定している理由 アクティビティ①についてアウトカムが複数設定できない理由 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|------|---|---|-------|----|-------|------------------------------|-------|-----------------|-------------|
| 活動内容② (アクティビティ) | | アジア諸国等で日本語を学ぶ優秀な高校生を日本全国の高校に招聘する事業を民間団体を通じて実施する。 | | | | | | | | |
| ↓ | | | | | | | | | | |
| 活動目標及び活動実績 ② (アウトプット) | | 活動目標 | 活動指標 | | 単位 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 5年度 活動見込 | 6年度 活動見込 |
| | | アジア諸国等で日本語を学ぶ優秀な高校生を日本全国の高校に招聘する。 | 当該事業により日本に招聘した高校生数 | 活動実績 | 人 | - | - | - | - | - |
| | | | | 当初見込み | 人 | - | - | - | 50 | - |
| ↓ | | 成果目標②-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり) | | | | | | | | |
| | | 当該事業により日本に招聘した高校生の再来日の意欲を図る目標として設定。 | | | | | | | | |
| 成果目標及び成果実績 ②-1 (短期アウトカム) | | 成果目標 | 定量的な成果指標 | | 単位 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 目標年度 9 年度 | |
| | | 当該事業により日本に招聘した高校生のうち学生や社会人として日本に戻ってきたいと回答した者の割合の増加 | 当該事業により日本に招聘した高校生のうち学生や社会人として日本に戻ってきたいと回答した者の割合 | 成果実績 | % | - | - | - | - | |
| | | | | 目標値 | % | - | - | - | 100 | |
| | | | | 達成度 | % | - | - | - | - | |
| 成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績 | | 成果指標: 事業実施団体による参加者へのアンケート 目標値: 前身事業における同じ質問への回答率は93%程度となっていることから、当該事業により招聘した高校生については、全員日本に戻ってきたいと回答することを目標とする。 | | | | | | | | |
| ↓ | | 成果目標②-2の 設定理由 (短期アウトカム からのつながり) | | | | | | | | |
| | | 当該事業により日本に招聘した高校生の再来日意欲の向上が実際の留学生の増加につながっているかを測る指標として設定 | | | | | | | | |
| 成果目標及び成果実績 ②-3 (長期アウトカム) | | 成果目標 | 定量的な成果指標 | | 単位 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 目標最終年度 15 年度 | |
| | | 高校段階での外国人留学生数の増加 | 高校段階での外国人留学生数 | 成果実績 | 人 | - | - | - | - | |
| | | | | 目標値 | 人 | - | - | - | 20,000 | |
| | | | | 達成度 | % | - | - | - | - | |
| 成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績 | | 成果指標: 文部科学省調査「高等学校等における国際交流等の状況について」 目標値: <令和15年度>新たな教育振興基本計画における2033年の目標人数 | | | | | | | | |
| アウトカム設定について の説明 | | アクティビティ②について定性的なアウトカムを設定している理由 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | アクティビティ②についてアウトカムが複数設定できない理由 | | | | | | | | |
| 事業に関連する KPIが定められて いる閣議決定等 | 名称 | | | | | | | | | |
| | URL | | | | | | | | | |
| | 該当箇所 | | | | | | | | | |
| 事業所管部局による点検・改善 | | | | | | | | | | |
| 点検結果 | | 本事業は、これまで実施した事業についてアジア諸国からの評価が高かったことを踏まえ、引き続き、その成果を生かし、国の事業として日本で学びたいと考えているアジアを中心とした優秀な高校生を受け入れ、国際交流を進めるものであり、グローバル人材の育成に当たり必要となる事業である。 | | | | | 目標年度における効果測定に関する評価(令和10年度実施) | | | |
| 改善の 方向性 | | 効率的かつ適正な予算執行に努める。 | | | | | | | | |

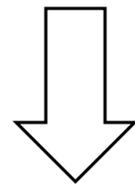
| 外部有識者の所見 | |
|---------------------------|---|
| 外部有識者による点検対象外 | |
| 行政事業レビュー推進チームの所見に至る過程及び所見 | |
| | 本事業は、令和5年度に開始した事業のため、アウトプット・アウトカムで設定した指標に基づく活動実績を確認するなどして事業の実施状況を確認しつつ、引き続き事業の着実な実施及び適切な予算執行に努めること。 |
| 所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況 | |
| 年度内に改善を検討 | 事業の目的を踏まえた事業の着実な実施とともに、適正な予算執行に努める。□ |
| 過去に受けた指摘事項と対応状況 | 公開プロセス・秋の年次公開検証(秋のレビュー)における取りまとめ |
| | |
| | 上記への対応状況 |
| | |
| | その他の指摘事項 |
| | |
| 上記への対応状況 | |
| | |
| 備考 | |
| - | |
| 関連する過去のレビューシートの事業番号 | |
| 平成23年度 | |
| 平成24年度 | |
| 平成25年度 | |
| 平成26年度 | |
| 平成27年度 | |
| 平成28年度 | |
| 平成29年度 | |
| 平成30年度 | |
| 令和元年度 | |
| 令和2年度 | |
| 令和3年度 | |
| 令和4年度 | 2022 文科 新23 0024 |

※執行実績のない新事業。

文部科学省
176.0百万円

諸謝金 0.06百万円
職員旅費 0.3百万円
委員等旅費 0.1百万円 を含む

アジア諸国を中心に日本語を学ぶ優秀な高校生を日本全国の高校に招聘し、日本各地でホームステイや寮生活をしながら、日本の高校生と共に学びあう取組を、高校生の留学・交流を扱う民間団体を通じて実施する。
また、招聘した留学生と日本人高校生が交流する「国際交流キャンプ」を開催し、より効果的に国際交流体験を推進する。



【補助金等交付】

国際文化交流促進費補助金
175.6百万円
A.民間団体(1団体予定)

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位：百万円)

費目・使途
(「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

| A. | | | B. | | |
|----|----|-------------|----|----|-------------|
| 費目 | 使途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使途 | 金額 (百万円) |
| - | - | - | - | - | - |
| 計 | | 0 | 計 | | 0 |

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載

チェック